

洗足学園音楽大学
第3回バレエコース本公演

ジゼル 全幕

谷桃子バレエ団クラス
谷桃子バレエ団



2017年 12月29日(金)
18:30 開演 [18:00 開場]

洗足学園 前田ホール



洗足学園音楽大学

キャスト

第一幕

ジゼル	佐藤 麻利香				
アルブレヒト	齊藤 拓				
ヒラリオン	中武 啓吾				
バチルド姫	新井 望				
クーランド大公	赤城 圭				
ペルタ	日原 永美子				
ウィルフリード	服部 響				
ベザント	種村 香音 (学1)	市橋 万樹			
バ・ド・シス	古澤 可歩子 石森 さくら (SC)	石川 真悠 (SC)	近藤 千笑 (SC)	森山 蓮花 (SC)	高谷 麗美 (SC)
ワルツ	大野 理彩 (学3) 町野 あゆみ (学2) 久富 礼子 (学1)	今村 美依那 (学2) 村山 未来 (学2) 秦 実沙江 (学1)	寺西 優希 (学2) 越智 友紀 (学1)	通山 香澄 (学2) 佐生 さくら (学1)	中村 杏奈 (学2) 高橋 美樹 (学1)
村娘	荒谷 乃々佳 (学3) 山口 京香 (学2)	雑賀 友花 (学3) 佐々木 詩苑 (学1)	小野寺 利能 (学2) 白井 恵子 (学1)	水上 礼菜 (学2) 谷内 礼奈 (学1)	矢彦沢 桃子 (学2) 松下 望佳 (学1)
村男	門倉 祐貴 (学3)	高橋 奨真 (学1)			
貴族	山田 みき 常田 萌絵 (学1)	飛沢 由衣	田中 杏奈	鳶田 彩恵 (学2)	北田 有希 (学1)
従者	土井 翔也人	池澤 嘉政			
バッカスの神	田中 陽由莉 (学3)				

SC = スタジオカンパニー

第二幕

ジゼル	佐藤 麻利香				
アルブレヒト	齊藤 拓				
ヒラリオン	中武 啓吾				
ミルタ	鳶田 彩恵 (学2)				
ドゥ・ウィリー	中村 杏奈 (学2)	今村 美依那 (学2)			
ウィリー達	大野 理彩 (学3) 通山 香澄 (学2) 北田 有希 (学1) 秦 実沙江 (学1)	雑賀 友花 (学3) 町野 あゆみ (学2) 佐生 さくら (学1) 久富 礼子 (学1)	田中 陽由莉 (学3) 村山 未来 (学2) 篠原 礼奈 (学1) 松下 望佳 (学1)	小野寺 利能 (学2) 山口 京香 (学2) 高橋 美樹 (学1)	寺西 優希 (学2) 越智 友紀 (学1) 常田 萌絵 (学1)

舞台スタッフ

SC芸術監督	齊藤 拓	舞台監督	伴 美代子
再演出	齊藤 拓 (谷桃子版)	衣裳美術	緒方 規矩子
原振付	ジャン・コラーリ ジュール・ペロー マリオス・ブティバ	照明	中沢 幸子 (梶ライティングデザイン)
音楽	アドルフ・アダン	谷桃子バレエ団衣裳部	山口 三枝子
バレエマスター	中武 啓吾	映像	合同会社 シンクロトロン・スタジオ
バレエミストレス	井口 美穂 佐藤 麻利香	装置	ユニ・ワークショップ
バレエミストレス補佐	新井 望 飛沢 由衣	音響	アートスタジオY's
		企画・制作	洗足学園音楽大学・谷桃子バレエ団



🎭 ジゼル 🎭
佐藤 麻利香



🎭 アルブレヒト 🎭
齊藤 拓

谷桃子バレエ団クラス



荒谷 乃々佳 (学3)



大野 理彩 (学3)



門倉 祐貴 (学3)



雜賀 友花 (学3)



田中 陽由莉 (学3)



今村 美依那 (学2)



小野寺 利能 (学2)



瀧田 彩恵 (学2)



通山 香澄 (学2)



寺西 優希 (学2)



中村 杏奈 (学2)



町野 あゆみ (学2)



水上 礼菜 (学2)



村山 未来 (学2)



矢彦沢 桃子 (学2)



山口 京香 (学2)



越智 友紀 (学1)



北田 有希 (学1)



佐々木 詩苑 (学1)



佐生 さくら (学1)



篠原 礼奈 (学1)



白井 恵子 (学1)



高橋 奨真 (学1)



高橋 美樹 (学1)



谷内 礼奈 (学1)



種村 香音 (学1)



常田 萌絵 (学1)



秦 実沙江 (学1)



久富 礼子 (学1)



松下 望佳 (学1)

あらすじ

第一幕

第一場

ライン川のほとりにある小さな村に、すこし身体が弱く繊細だが、明るく踊り好きの村娘ジゼルが母親のベルタと暮らしている。彼女はロイスという若者を愛していた。実はロイスはシレジア公国の公爵アルブレヒトで、戯れに貴族という身分を隠してジゼルに近づいている。また同じ村の森番（領主から狩猟場の管理を任されている）ヒラリオンも彼女を密かに愛しているが、ロイスに心奪われているジゼルは彼の好意に気がつかない。偶然にロイスとジゼルの楽しげに語り合う姿を目撃したヒラリオンは、無粋にも自身の愛を伝えるべくジゼルに強引に言い寄るが、ロイスの威厳が無言の威圧感となり彼を引き下がらせる。

第二場

ぶどう畑で働く村娘達がジゼルを仕事に誘いに来る。ジゼルは、恋人ロイスの紹介もそこそこに、皆を踊りに誘い込む。踊りに興じる中に、息が上がり胸を押さえ立ち止まるが、優しくいたわるロイスに元気を取り戻し、二人は愛の深まりを確認する。そこにジゼルの母親ベルタが現われ、昔からの言い伝えて踊り好きの未婚女性は、死後ウィリーになりこの世とあの世の間をさまよい続ける話で諷め、ジゼルを家に連れて帰る。独り残されたロイスは、遠くから聞こえて来る狩りの角笛にあわせて身を隠す。自分の本当の身分を知っている貴族達の狩りの一行に違いないと思ったからである。それを物陰から見ていたヒラリオンは、以前からロイスの醸し出す雰囲気や身のこなしに違和感を持っていたので、嫉妬心も彼を後押しして正体を確かめるべくロイスの小屋に忍び込む。

第三場

この辺り一帯の領主であるクーランド大公は、娘のパチルド姫や、取り巻きの貴族達と狩りを楽しんでた。パチルド姫はアルブレヒトの婚約者であるが、疲れを癒す為に立ち寄ったのが偶然にもベルタの家であった。ジゼルにとって初めて接する王女は、全てが感嘆の的であったが、パチルド姫にとってもジゼルの純真な乙女らしさが好意を抱かせた。お互いに婚約中の身であることを知った王女は、お祝いに自らのネックレスをジゼルに与える。他の貴族達が狩りを続ける為に立ち去り、大公とパチルド姫は休息を取るためにベルタの家に入る。誰も居なくなった広場に、ロイスの家からマントと長剣を持ったヒラリオンが現れる。ロイスの身分を明かす証拠を見つけた彼は、これでジゼルの気持ちを自分に向かせることが出来ると、感情の高まりを押さえながらその場を立ち去る。

第四場

ぶどうの収穫を祝う祭りが始まり、その女王に選ばれたジゼルや、友人の男女の踊りが祭りを一層華やかにする。ジゼルの友達、村の若者の男女、更にロイスも加わって、踊りが最高潮に達した時、ヒラリオンが現われロイスの正体を暴く。半信半疑ながらも、角笛で呼び戻されたパチルド姫に対するロイスの態度を見て、全てを悟ったジゼルは、悲しみと錯乱で正気を失ってしまう。狂気の中で、想い出、妄想、現実が入り乱れたまま、最後にロイスの胸の中に飛び込む。ジゼルの死によって初めて、自分が心からジゼルを愛していたことに気が付いたアルブレヒトは、全身を駆けめぐるやり場のない悲しみに、その場にいたたまれず走り去る。

第二幕

第一場

木々がうっそうと生い茂り、薄暗く静かな夜の墓場。ジゼルの死という予想外の結末に、悔恨の情にさいなまれるヒラリオンは、墓を訪ねる。ジゼルの墓を見つけるが、怪しい気配を感じて恐怖が先に立ち逃げ去ってしまう。日没とともに現れるというウィリーに捕まったが最後、誘惑の踊りに抗うことはできず、死ぬまで踊らされることになるのである。ヒラリオンが走り去った後、ウィリーの女王ミルタが現われ、ローズマリーの枝を折りとり、ウィリー達を呼び起こし、儀式が始まる。

第二場

儀式が進み、墓から呼び起こされたジゼルは、ウィリーとして生まれ変わる。

第三場

愛する人を亡くし悲嘆に暮れるアルブレヒトが、ジゼルの墓に花を供える。森に漂う妖気に、身の危険を感じた従者ウィルフリードの忠告をも退け、独り残り変わらぬ愛と、やりきれぬ思いに身を委ね沈み込むアルブレヒト。そこにウィリーとなったジゼルが、やはり、強い愛を捨てきれずに現われる。アルブレヒトは、夢とも幻ともつかぬジゼルの姿を目にすることができたことを喜び、二人の愛は再燃する。しかし、ジゼルは、しょせん人間ならぬウィリーの身、愛の証の花を与え、消えてしまう。アルブレヒトはその花を抱いたままジゼルを探す様にさまよい歩く。

第四場

ヒラリオンはウィリーの群れに誘い込まれ、踊り続け、遂には沼に突き落とされて死にいたる。そして次にはアルブレヒトもウィリー達の餌食となるべく女王ミルタの前に引き出される。ジゼルはアルブレヒトを助けようと十字架の処へ連れて行くが、ミルタに踊りを命じられる。ミルタの魔力が通じない十字架のそばに立ちながらも彼女の踊りに強く惹きつけられたアルブレヒトはその場を離れる。以前にもましてかたく結ばれた二人は、哀愁を漂わせながらも愛を謳歌する。何物をも恐れずジゼルへの愛を高らかに謳うアルブレヒト。人間的な感情がよみがえったジゼルは、アルブレヒトを助けたい一心でミルタに逆らう意志をあらわに舞う。アルブレヒトが、ジゼルへの深い愛の証明とミルタに命じられる踊りに、持てる限りの力をつかい果たし瀕死の状態に陥ったその時、暁を告げる鐘の音が聞こえる。夜明けが訪れ、ミルタとウィリー達は、元の墓へと帰って行く。そしてジゼルも消えてゆかねばならない。二人は悲痛な思いで最後の別れを惜む。死して尚、ジゼルはアルブレヒトを愛し、許し、命を救ったのである。



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。